

第34期 東京都青少年問題協議会
第2回若者部会

令和6年7月22日（月曜日）
午後3時30分～午後5時30分
第一本庁舎34階北塔 34A会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 事務局説明
- 3 意見交換
- 4 事務局連絡
- 5 閉 会

第1回審議事項

困難を抱える若者から意見を聴くための仕組みについて

各委員からの主なご意見

【意見を聴く方法・手段に関するもの】

- ・ 子供・若者の様々な状況に合わせた多層的な聴き方が必要
- ・ 若者が集まる居場所等に出向く
- ・ 若者と信頼関係ができていない支援団体と連携する
- ・ 支援団体等と繋がりが無い若者に対し、オンラインやYouTube等の活用
- ・ 若者から意見が集まる相談窓口の活用

【意見を聴くに当たって重要な事項】

- ・ 当事者との信頼関係
- ・ 理路整然でない意見をはじめ、様々な意見をどのように反映していくか
- ・ 当事者意識を持てるテーマかどうか
- ・ 興味を持てる質問にどのように変換していくか




上記のご意見を踏まえ、実際に意見を聴くための具体的方法について取りまとめていただきたい

第1回若者部会の振り返り・第2回審議事項について

第1回のご意見を踏まえた取組案

【困難を抱える若者が集まる場所（居場所など）に出向いたアウトリーチ型方法】

- 誰が聴く：都が委託する事業者（求められるスキルなどを仕様で条件付け）
受託者は、聴き取りを行う場を運営する支援団体等と事前にすり合わせを行う
- 誰に聴く：18歳以上のヤングケアラー、依存症（オーバードーズ）、障害、
若年無業（ニート）、ひきこもり、貧困、孤独孤立など、困難な状況に置かれた若者
- どこで聴く：上記対象に応じ、相応しい場所を有識者の監修等を経て選定
仮想空間の居場所やオンラインゲーム空間等も含む
- 何を聴く：庁内各局が施策立案に際し、意見聴取したいテーマを募集の上、選定 
- 施策への反映方法：結果を所管局に還元

例：「困難を抱えた若者にとって求められる居場所とはどのようなものか」

- ・基礎情報（年齢、自認する性、職業）
- ・困った時に相談する人がいるか、いる場合、誰か
- ・どのような困難な状況を抱えているか・いたか
- ・ココの居場所は、どのような効果があったか
- ・ココはあなたの居場所になっているか
- ・なぜココを選んで来ているのか
- ・ココ以外にあなたの居場所はあるか。あるとすれば、どのような居場所か
- ・ココの居場所のよいところ、悪いところ
- ・どのような居場所があるとよいか
- ・どのような居場所が心地よいか
- ・どのような居場所が心地悪いか
- ・自宅や職場から居場所までの距離はどれくらいがよいか

【居場所や支援機関にアクセスできない若者に対応したオンラインツール活用型方法】

- 誰が聴く：若者相談を行うユーザーとの協力の下、実施
- 誰に聴く：上記【アウトリーチ型】と同様
- どこで聴く：YouTube等（例えば、コメント欄等の活用）
- 何を聴く：上記【アウトリーチ型】と同様
- 施策への反映方法：上記【アウトリーチ型】と同様

第34期東京都青少年問題協議会 若者部会名簿

【若者部会】

(敬称略)

氏 名	所 属 等
荒 井 佑 介	特定非営利活動法人サンカクシャ代表理事
大 橋 暉 弘	認定特定非営利活動法人育て上げネット
小 奈 悠 馬	特定非営利活動法人青少年自立援助センター
土 肥 潤 也	NPO法人わかもののまち・株式会社C&Yパートナーズ
西 山 なつ美	多摩市若者会議
與那覇 千 夏	調布市子ども生活部児童青少年課

【事務局】

氏 名	所 属 等
竹 迫 宜 哉	生活文化スポーツ局生活安全担当局長
村 上 章	生活文化スポーツ局若年支援担当部長
山 本 理	生活文化スポーツ局都民安全推進部若年支援課長
栃 折 晃 平	政策企画局計画調整部計画調整担当課長